

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人間は、「喜怒哀楽」があるから、人生を楽しく愉快地に生きられるのだと思っています。確かに、喜・怒・哀・楽それぞれの感情に従うのが地球人の生き方なのです。しかし、これこそエゴによる生き方の肯定なのです。喜怒哀楽とは、正に心（エゴ）による反応だからです。

楽しければよいではないか？ という言葉も、エゴを助長しています。地球人の楽しいとは、エゴによる部分が大半だからです。

人間は、あまりにも心の楽しむことを求めすぎます。その結果、喜怒哀楽というように哀しみも味わうこととなるのです。しかし、新約聖書では、イエスでさえ喜怒哀楽に影響されていたことが読み取れます。いかに地球が、喜怒哀楽に支配されているかがわかるというものです。

土星母船の指導者は、地球人について「心は混乱して分裂・・・まだ平和を知りませんし真の美を見ていません。」と語っています。ここから類推すると、地球人は、真の喜びも楽しみも知らないと解釈できます。そして、真の美をはじめ真の喜び、真の怒り、真の哀しみ、真の楽しみがあるということも推測されます。

喜怒哀楽というのは、人間の心の反応であり、これを否定することは人間を否定することと思われませんが、確かに喜怒哀楽に依存しない生き方は地球人を超えるのかもしれない。

友好的なSPは、喜怒哀楽を超えています。彼らのそれは、意識の写し絵であり単に心の求めるものではなく、意識的表現としての喜怒哀楽で生きているようです。これが、“真の美”等に繋がるものだと思います。

“意識的表現としての喜怒哀楽”。これは、心の喜怒哀楽とは完全に異なりますが、これに相当するものが意識に存在するという事です。人間は、“宇宙の意識”という部分と“心”という部分の両方に乗った存在で、その比率は、大部分が心という部分にあります。本来は、意識から感じたものを心が表現するのですが、現在は主従が逆転しているのです。「生命の科学」でいう心を意識に任せるとは、結果として喜怒哀楽を超えることを意味しているようです。

“言葉に注目”

<人間はまだ地獄に落ちた魂として生きています = 救われざる者>

by アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが土星の大母船に乗船した際、指導者から語られたものです。人間は、地球での生活を始めるにあたって、生き方を学んでいけばよかったのに、そのレッスンに失敗したと言っています。そして、地球上の存在の調和を破壊し、隣人に対して敵意を持って生活し、心は混乱し分裂したという事実から、人間は地獄に落ちた魂ということなのです。

そして、こんな暗黒の中に住んでいる人間とは誰なのかと疑問を投げかけます。指導者は、「それは“不滅なる者”に奉仕しなかった救われざる者！」と語っています。更に、人間は、道について語りながら、行くべき道を探し求めようとはしない。魂の飢えを否定するのも人間等々、手厳しいながらも地球人への愛情を感じさせる言葉が続きます。

この地球を見わたせば、指導者の話が事実であるばかりか深遠な哲学であることがわかります。少なくとも私たちは、救われざる者ではなく救われる者として生きたいと思えます。

「生命の科学」学習のポイントPart36

今回は、レクチャー3 宇宙の法則の応用、第2回目“エゴの心を訓練すること”という部分。前段に「人間が完全な表現の道具となれば、自由意志を持ってその法則の正しい、または誤った応用法を知るでしょう。これが人間の存在の目的なのです。」と書いています。

つまり、人間の目的は、自由意志によって宇宙の法則の応用法を知ることだということです。

そして、心の意志と意識の意志を区別して、人間は、意識の意志（＝神の意志）に従わなければならないと記しています。「そうすれば、“神の意志”が行われるのです。」と。

心の意志と意識の意志の違いは、前者が攻撃的、自己中心的、生活のすべてを恐怖し、多くの過失を犯すのに対し、意識の意志は、親切で豊かで美しく恐怖を知らない点にあります。客観的には、意識の意志が良いに決まっていますが、自己である当事者は心の意志であり、常にその立場で考え行動してしまうのが人間（地球人）なのです。

しかし、万物は、“宇宙の法則”の意志によって働いています。人間だけが、自由意志によってそれに反して生きていると書いています。

神の意志は常に完全な調和を表現しているのに、人間は自由意志によって肉体を濫用しています。そして、「神の意志は人間のゆがめられた意志に自分を貸しません。」として、その結果、苦痛をとという代償により学びを得ると書いています。

幸いなことに、人間の肉体には、エゴとは別な調和の法則が働いているので、人間は、多年生きることができるといわけです。毎度のことですが、今回も地球人にとって大変重要です。

宇宙に“生きる”

<名言格言編36>

“人間万事塞翁が馬” 昔、中国の北方の砦（塞）の近くで、一人の老人と息子が暮らしていました。ある日、老人の馬が逃げだし隣人たちは気の毒がりました。しかし、老人は泰然としています。その後、逃げた馬が立派な馬を連れて戻りますが、老人は泰然としています。今度は、息子が馬から落ちて怪我けがをしますが、老人は泰然としています。戦争が起こり、息子は怪我で戦争に行かずにすみました。そこで、人々は一喜一憂しないことを学んだのです。

Q：宇宙時代は来るのですか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーは、金星母船で「宇宙時代」について会話をしています。SPは、“宇宙的な理解”と呼びたいということですが、地球は宇宙時代に近づきつつあるということです。地球人が、地球以外の人間の住む可能性について広い意味で気づいたのは今回が初めてからです。現在は、米国やロシアを先頭に宇宙開発が進められていますので、ここに「生命の科学」の理解が加われば、真の宇宙時代に突入することでしょう。

書物紹介

『原子転換というヒント』 久司道夫 著 三五館

著者は、「簡素で自然な生食を実践して健康と長寿を獲得する」マクロビオティックの権威です。本書では、ある元素が他の元素に変わる夢のような原子転換について書いています。例えば、炭素が鉄に変わる、水銀が金に変わるということです。これは、現在の科学では、あり得ないこととされていますが、炭素が鉄に変わる実験等を行い検証しているということです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成24年11月23日（祝）、平成25年1月12日（土）、3月10日（日）、5月12日（日）、7月13日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

アダムスキーの教えの確かさを理解するには、様々な知識も必要です。本紙では、そのために地球的な知恵も掲載しています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第36号>

発行日 平成24年10月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人間は、“自由”という言葉に弱いようです。自由こそは、人間のあらゆる可能性を保証するものとして守られ、また、他人の自由も損なわないことが大切なこととなっています。

しかし、自由と言っても何にも制約がないわけではありません。各国には、それぞれの法律において、犯してはならない様々な事柄が規制されています。法治国家として、当然なことですが、法なければ集団生活などできないことでしょう。

この地球における“自由”は、宇宙的に見てどうなのでしょう？ どうやら、人々が語る自由には、大きく3つのパターンがあるようです。

1つは、まったくの自由のことで、これはエゴの赴くままの行動を意味しているようです。

2つには、宇宙の意識に従うことを意味するものです。

3つには、1つ目と2つ目を混ぜ合わせたものです。

補足しますと、1つ目の自由というのは、宇宙の意識と対立することで生まれたエゴによる行動を意味しています。地球上においては、この自由による行動がほとんどだと思われま

す。2つ目は、あまりピンとこないかと思われま

すが、宇宙の意識に従うことが自由なのだという考えです。エゴを拘束させないことが自由だという考えからすれば、当然に違和感がありますが、それは真の自由ということを知らないだけのことです。宇宙の意識に従うことこそが、総ての拘束から解放され、細胞が生き生きと活動し、あらゆる可能性が見えてくるのです。宇宙の意識が、これあれかしと願う方向に活動することが、流れに従うことであり体内にエネルギーが注がれ、人間にとって最も楽な生き方となるのです。

アダムスキーは、「完全な自由があれば積極性が盛んに出てくる・・・。」と語っています。完全な自由とは、宇宙の意識に従うことで、それによって何事でも成し遂げようという積極性が盛んに出てくると言っているのです。少なくとも、アダムスキーを理解できる私たちは、このような自由を求め、真の自由の下に生きる人間になりたいものです。

“言葉に注目”

<あなたがたは金星人として生きたいのか>

by アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

アダムスキーは、「この地獄のような地球から脱出して金星の平和と幸福のなかで生きてみたい」と大声で語っていた多くの人を忘れないと書いています。彼が、このような人々に不信感を持っていたことがわかります。そこで、アダムスキーが、そのような人々に尋ねたのが見出しの言葉です。その回答が、「別にそういうわけではない」と言ったということです。このことからアダムスキーは、「彼らは一、二の理由で、・・・同胞よりも自分が優位にあると感じることを好んでいる・・・。」と解釈しています。

そして、「しかし地球上の人類を分裂させているのはこの種の好き嫌いなのだ。」と書いています。だから、そのような人が、金星へつれて行かれたなら地球上よりひどい地獄のような苦しみを受けると言っています。私たちも、このような現実逃避をしていないか、再度、考え直してみる必要があるようです。

「生命の科学」学習のポイントPart37

今回は、レクチャー3 宇宙の法則の応用、第3回目“人間は反宇宙的になった”という部分。

前項を踏まえ、人体内には知性の二つの段階があると書いています。「一つは肉体の機能を指示する宇宙的なもの、他の一つは肉体的に苦痛を起こす心の対抗です。」と。ある牧師は、このことを「人間は反神的になってしまった。」と表現したということです。これについてアダムスキーは、人間は創造主の指導を求めず、生命の贈与者を信用していないので、これは真実だと認めています。その結果が、“恐怖”という主人のもとで極端に自由意志を行使していると語ります。この辺の解釈や表現は、さすがに素晴らしいものがあります。創造主（宇宙の意識）から離れることは、土台を失うことであり安心感を欠くことから、必然的に恐怖を持つこととなるのです。ここは、的を得た解釈であり根本的に重要なところなのです。

恐怖を持つようになるのは、自由意志の結果であるとしています。人間の意志が創造主を信用しなくなると他人を信用しなくなり、かろうじて信じられる自分自身以外は、何も信用できず、他人とのトラブルをはじめ、戦争などの大きな問題を引き起こすこととなります。

地球上で、何千年経っても平和とならず常に争っている理由が、ここで端的に示されているのです。つまり、創造主と離れることが、すべての悪の元凶なのです。このことは、論理的に考えれば、恐らく誰もが納得できることだと思われます。しかし、これが実践できないのが、地球人ということなのでしょう。これは、冒頭語にも書いている自由意志の使い方によって、天国と地獄のどちらの道へ通ずるかが決まるということなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編37>

“晴耕雨読” 晴天の日には外にでて田畑を耕し、雨天の日には家で読書をするというように、職業に就かず、思いのままにのんびりと生活をするということです。最も自然な生き方として、退職後に憧れる生活の代名詞として使われるものです。確かに、戦争のような過激なビジネスマンには、人間性の復活のために必要な生活なのでしょう。



Q：SPの活動は停滞しているのですか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：UFOや異星人に関する話題が少なくなると、このようなことを質問されます。これは、テレビ番組としての放映や、話題の新書として登場しないことから言われるものです。確かに、話題としては少ない状況です。しかし、彼らの活動は、アダムスキー時代に始まったことではなく、数万年あるいはそれ以前から行われていることですから、停滞しているように見えたとしても、簡単になくなるようなものではないと理解しておきましょう。

書物紹介

『致知』 致知出版社

今回は、「致知（ちち）」という雑誌の紹介です。本書は、書店での販売ではなく、直接出版社へ申し込み月刊誌として郵送されるものです。内容は、「巻頭の言葉」として、論語普及会学監・伊與田覺氏、ウシオ電機会長・牛尾治朗氏、アサヒビール名誉顧問・中條高德氏の著名3氏がリレー式で掲載しています。論語、仏教、神道、歴史、人物伝等が主なもので、宗教的なものでもなく、学問として、あるいは人間学として編集されています。<http://www.chichi.co.jp>

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成25年1月12日（土）、3月10日（日）、5月12日（日）、7月13日（土）、9月14日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

年末は何かと多忙ですね。それにしても、社会情勢は大きく変化しています。誰もが意図しない方向へ動くことさえあり得るのでは・・・

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第37号>

発行日 平成25年1月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）